

まるで南国のように…。
植物たちがすくすく育ちます。



弟子屈町 2001年新築

山村 五十三(いそみ)さん
(会社社長・67歳) 信子さん

FAS User

1

「ファースの家」に住んでから、キッチンカウンターに置いたポトスがニョキニョキ伸びて、壁一面を飾るすてきなインテリアに。

サンデッキのベンチに座り、「森に囲まれた立地も気に入っています」と山村さん夫妻。

夏季は比較的湿度が高く、冬季は-20度まで冷え込む日も多い、ひがし北海道・弟子屈町。季節によって寒暖の差や湿度差が大きな気候風土ですから、調温&調湿管理機能にすぐれた「ファースの家」が、年中ナチュラルな快適さで包み込んでくれます。



高い壁上部には奥様の信子さんが製作した革クラフトの壁掛けが。空気がきれいだから壁の色はいつまでも白く、作品が美しく映えます。

「1年中、どの部屋も温度が均一で、空気がサラツとしていくのがうれしいです。住んでいるとこれが当たり前になっってしまうのですが、時々、友(笑)」

こうして縁あって「ファースの家」に住んでみると…。
2000年に札幌市から転居してきた山村さんご夫妻は、その当時から各ハウスメーカーのモデル住宅を数々見学していました。そして(株)近藤建設のモデルハウスを見た時、ご主人の五十三(いそみ)さんがふと興味を持ちました。「その時はまだ『ファースの家』がどんなものかは知らなかったのですが、モデルハウスを見て、「しっかりと建て方をしてるな」とまっ先に感じました。私は長く土木工事業に携わってきたので、建築物を見る際は、うわべだけでは分かりにくい部分が目がいってしまいうようです。」

人が遊びに来たりすると、「普通、家の中の空気って多少は匂まるで南国のように…。
植物たちがすくすく育ちますいがあるたりよどんでいるのに、この家はまるで戸外と同じようなさわやかな空気ね」と言われて、やっぱり「ファースの家」はすごいね、と思います」と、笑顔をみせるのは奥様の信子さん。
リビングの窓辺やキッチンなどに飾られている、とりどりのお花たちも信子さんの楽しみ。
「札幌にいた時よりも、観葉植物などは育ちが良いような気がします。ハイビスカスもこの家に住んでから毎年冬から春にかけて咲くようになったんですよ」。
植物は正直です。四季を通じて家じゅうが常夏のような家だから、年中元気に育っているのでしょう。



静かな森風景に調和する、鮮やかな花々と芝生、そしてウッディ調の外観。